ほっとメール

地域のすみずみまで、医療生協の**わ**をひろげよう

神奈川みなみ医療生協
2023 年 8 月 24 日
組織部
第 544 号

帯状疱疹ワクチン接種費用の一部助成を葉山町・横須賀市へ要請しました。

かながわみなみ医療生活協同組合(以下、神奈川みなみ医療生協と略す)は、8 月 22 日に葉山町に、同月 23 日には横須賀市に対して「帯状疱疹ワクチン接種費用の一部助成を求める要請」を下記の内容で行いました。

1. 市民の負担を軽減するため、帯状疱疹ワクチン接種費用の一部を助成すること

葉山町や横須賀市との懇談では、最初に帯状疱疹が 50 歳代から発症率が高くなり、80 歳までに 3 人に 1 人が発症すると言われていること、免疫力低下に伴い誰でも発症する可能性があること、予防としてはワクチンの接種が有効であること、しかし費用が高いことで接種を躊躇する人が多いことなどを福祉課の課長らと共有しました。

こちらからは、ワクチン接種費用の一部助成をした自治体が全国で 195 ケ所に上ること、助成の多くが 50 歳以上を対象にしていること、内容も費用の半額程度を助成していることなどを説明しました。

葉山町の担当課長は、「最近、県から帯状疱疹ワクチン接種費用の助成をしているかどうか調査依頼が来て返事を出したばかり。国の審議会が定期接種に入れるかどうか検討しているので、その様子を見ている」「葉山町が費用助成をするかどうかは、国の動向を見て判断したい、実施するにしても償還払いは避けたい」と回答。さらに担当課長は、「国が定期健診として帯状疱疹を加えれば、１０月実施になるだろう。その時は補正予算を組むしかない」「子宮頸がんワクチンの時は国よりも早く県が助成を決めている、ひょっとすると県が助成を早くに決めるかもしれない」など国や県の動向についても意見を述べました。

横須賀市の担当課長は「予防接種の重要な意義は承知している、県が助成に踏み切ってくれれば、同じようにやりたい」「問題は財源だ、対象を 65 歳以上に設定し、接種率を 25%とした場合、約 5 億円の財源が必要になる」「市単独での助成は考えられない」と回答しました。また、同様な要請は、「医師会からはないが、年金者組合からは届いている」ということでした。

今後は、国や県の動向など何か新しい情報がつかめたらお互いに情報交換していくことを確認し、懇談を終えました。

葉山町との懇談の様子

横須賀市に要請文書を提出

＊各事業所の取り組みをお寄せください。ニュースで紹介させていただきます。　h-sosiki@k-minami.or.jp